

一般社団法人日本鉱物科学会 2020年度 定時総会 資料 決算及び事業報告

日時：2021年9月17日（金）9：00～10：10

場所：広島大学東広島キャンパス理学部E棟1階 E102教室
（〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1）

議長選出：（ ） 会員

開会宣言：

議長は、本日の株主総会が、web会議システムを利用し行う旨を述べ、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認してから、開会宣言をすること。

定足数の確認：842名×10分の1以上＝85人以上 （ ）名

当日(ZOOM参加含) ()人 (ZOOM 人) + 委任状()人 + 書面議決書()人

物故会員への黙祷：^{とこなみ}床次 ^{まさやす}正安 名誉会員 ^{くるだ}黒田 ^{よします}吉益 永年会員

会長挨拶

目的事項

報告事項

- ・2020年度（一般社団法人第5期）事業報告
（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務, Elements，会員，その他）
- ・2021年度（一般社団法人第6期）事業計画書及び収支予算などの件
- ・その他

決議事項

- ・第1号議案 2020年度（一般社団法人第5期）事業報告承認，決算承認の件
- ・第2号議案 理事の辞任に伴う補欠理事の選任について
- ・第3号議案 会員会費規定第5条の改正について

資料: 2020年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2021年度収支予算
2. 2020年度決算報告
 - 1) 貸借対照表
 - 2) 正味財産増減計算書
 - 3) 財務諸表に対する注記
 - 4) 附属明細書
3. 監査報告書

閉会宣言

授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与

報告事項

I. 2020年度事業報告（一般社団法人第5期 2020年8月1日～2021年7月31日）

宮脇 律郎 会長 挨拶

一言ご挨拶申し上げます。

恒例により、一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要を確認します。

本会は、目的として鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかることを定款第3条に定め、それを達成するため、第4条で次の事業を行うと記しています。

(1) 和文誌（岩石鉱物科学）、英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）、その他の冊子版、電子版による発行

(2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催

(3) 研究の奨励及び業績の表彰

(4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2020年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第 5 期になります。前年度から、COVID-19禍の影響は収まらず、困難な日々が今もなお続いています。会員の皆様には、このようなこのような状況の下で、学会活動でのご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

昨年9月の2020年年会は、急遽、オンライン開催に切り替え、東北大学LOC、行事委員会そして事務局には大変ご苦労をおかけしました。また会員の皆様には、ご不便を強いることになりました。このような状況でも、新しい運営方法を模索し、各位のご協力に拠り、多くの参加者を得て、活発な議論を展開できたことは、学会の目的に向かって途切れる事無く進むことができたこと、嬉しく思います。このたびの2021年年会についても、COVID-19禍の状況変化に対応できるように、広島大学での現地開催とオンライン開催のハイブリッド方式で準備をいただきました。研究成果の公表や、今後の研究進展のための討論の場が維持されたことは、鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及に向けた学会の姿勢が健全であること示していると思います。改めて、開催にご尽力をいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

ご存知のように、本会の学会運営は大変厳しい状況にあります。この1年間、執行部、理事は、学会事業の見直しを検討してきました。まずは、学会誌の完全電子化による財政の健全化を図る案を策定し、会員の皆様に提示したところです。この後、庶務、広報など検討をさらに進め、学術活動に専念できる体制を整え、会員のみならず、社会にも貢献する活気を取り戻したいと思っております。皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

以下の個別の事業状況については、各業務を一任している各担当者から報告します。

(1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の冊子版、電子版による発行事業

[1] 和文誌(岩石鉱物科学)編集報告（長瀬和文誌編集幹事・理事 代理 高澤栄一副委員長）

1. 2021年8月28日第3回定例理事会報告

岩石鉱物科学50巻2号,3号(2号分)掲載内容

2号分	件数	頁
原著論文	1件	8p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
資料・解説	6件	47p
訂正	0件	0p
新刊紹介	1件	1p
ニュース(他学会案内,教官公募等)		0p
投稿規定		0p
学会記事(理事会・総会議事録)		25p
その他の記事		0p
道徳文		0p
総目次		0p
広告	1件	0p
白頁		1p
5/29以降2号発行	合計	82p 41p/号
前回まで4号発行	合計	146p 36.5p/号

編集状況報告（2021年8月25日現在報告）

(1) 発行状況:

50巻2号(5月31日発行号):受賞紹介3編, 年会案内など掲載, 電子ジャーナル2021年5月26日公開中, 冊子発送2021年5月31日発送済

50巻3号(7月31日発行号):原著1編, 資料他2編, 電子ジャーナル2021年7月13日公開, 冊子発送2021年8月12日発送済

(2) 現在受理論文: 1編

(3) 現在査読中論文: 0編

2. 2021年7月27日第3回臨時理事会報告 和文誌編集報告（長瀬和文誌幹事代理：高澤栄一）

2021年5月28日に開催された和文誌GKK編集委員会内容抄録「和文誌での検討案報告」（長瀬和文誌幹事代理：高澤栄一）

日時：2021年5月28日 16:00～17:10

出席者（五十音順）：阿部なつ江、遠藤俊佑、興野 純、久保友明、近藤 忠、下林典正、永島真理子、中村美千彦、坂野靖行、濱田麻希、伴 雅雄、宮原正明、門馬綱一、塚本尚義、吉朝 朗、高澤栄一（副編集長）、編集事務局（宮地）

議事録：門馬綱一、高澤栄一

1. 編集状況報告（2021年5月26日現在）

2. GKK誌の経費削減案策定に向け副委員長より説明があり、その後情報共有と意見交換をした。

1)電子ジャーナル化を図ることは概ね合意(希望者には追加料金でオンライン印刷での冊子体の配布)。2)但し、電子ジャーナル化してもGKKの独立採算化は難しい。収入増として、完全カラー化、レター論文・原著論文を増やすこと、特集号発行等が必要。3)年間会員のみ閲覧制限を解除あるいは短期化の検討も必要。4)ページチャージ値上げも検討。5)無料別刷廃止。6)英文誌JMPSとGKKとの統合も議論したが、GKKだけでは決められない。6)電子ジャーナル化後のGKKのあり方については今後も随時検討予定。

検討案報告（長瀬和文誌幹事代理：高澤栄一）

高澤和文誌編集幹事代理より、前回理事会での報告の通り、電子ジャーナル化に向けた準備を進めており、特に方針の変更はないこと、実施の詳細については、今後詰めていく予定とのことが報告された。

3. 2021年5月29日第2回理事会報告 和文誌編集報告（長瀬和文誌幹事代理：高澤栄一）
 岩石鉱物科学49巻2号,3号,4号,50巻1号(4号分)掲載内容

4号分	件数	頁
原著論文	2件	32p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
資料・解説	4件	29p
訂正	0件	0p
新刊紹介	4件	1p
ニュース(他学会案内,教官公募等)		1p
投稿規定		3p
学会記事(理事会・総会議事録)		74p
その他の記事		0p
追悼文		1p
総目次		2p
広告 1件		0p
白頁		2p
今年度4号分合計	36.5p/号	146p
昨年度3号分合計	42.6p/号	128p

1. 編集状況報告（2021年5月26日現在報告）

(1) 発行状況:

50巻2号: 受賞紹介3編, 年会案内など掲載
 電子ジャーナル2021年5月26日公開中, 冊子発送2021年5月31発送

50巻3号(発行未定) 原著1編, 資料他2編掲載予定

(2) 現在査読中論文: 1編

2. その他

2021年5月28日開催のGKK編集委員会での会議内容につきましてはGKKの経費の削減案について情報共有と意見交換を実施。1) 電子ジャーナル化を図ることは概ね合意(希望者には追加料金でオンライン印刷での冊子体の配布)。2) 但し, 電子ジャーナル化してもGKKの独立採算化は難しい。収入増として, 完全カラー化, レター論文・原著論文を増やすこと, 特集号発行等が必要。3) 年間会員のみ閲覧制限を解除あるいは短期化の検討も必要。3) ページチャージ値上げも検討。4) 無料別刷廃止。5) 英文誌JMPSとGKKとの統合も議論したが, GKKだけでは決められない。6) 電子ジャーナル化後のGKKのあり方については今後も随時検討予定。

【2】 英文誌 (JMPS) 編集報告 (吉朝英文誌編集幹事・理事)

1. 2021年8月28日第3回定例理事会報告

2021年5月29日第2回定例理事会報告以降の状況を以下の通り報告いたします。

1. JMPS現状報告

1) 投稿数状況: [参考: 表1]

[参考: 表1] WEBシステム利用後の投稿数 (2021年8月25日現在)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
Jan	3	2	2	5	2	4	7	5	5	1
Feb	2	2	1	2	2	0	2	1	0	0
Mar	2	0	4	2	2	7	3	1	1	5
Apr	2	3	1	5	3	12	5	5	3	1
May	4	0	3	5	4	3	4	3	1	0
Jun	12	6	9	4	3	5	2	3	2	0
Jul	3	3	8	9	12	9	6	6	5	2
Aug	5	2	1	7	1	2	2	12	3	2
Sep	2	1	4	5	2	2	4	2	3	2
Oct	14	11	16	9	3	4	3	10	2	2
Nov	5	4	4	5	8	9	18	5	8	2
Dec	3	2	6	5	2	4	2	5	2	2
Total	57	36	59	63	44	61	58	58	35	11

2) 編集状況: 早期公開中0編, 受理論文0編, 査読中:4編, 返却中:0編, 投稿: 1編

3) 発行状況: 116巻3号 (6月号): 原著論文5編, Letter 2編 計70頁
 7月18日WEB公開, 7月19日発送済
 116巻4号 (8月号): 原著論文5編, Technical Note 1編
 (印刷中2編, 準備中4編)

116巻5号 (10月号): 未定

4) 2020 JMPS Impact Factor: (0.721)

(2019 0.764, 2018 1.472, 2017 1.030, 2016 0.409, 2015 0.648, 2014 0.742, 2013 0.656, 2012 0.589)

How is Journal Impact Factor Calculated?

$$\frac{\text{Citations in 2019 to items published in 2018 (21) + 2019(28) 49}{\text{Number of citable items in 2018(34) + 2019 (34) 68}} = (0.721)$$

2. 2021年7月27日第3回臨時理事会報告 英文誌経費削減案の報告 (吉朝英文誌幹事・理事)

吉朝英文誌編集幹事より, 会計事情の悪化への対応策定を会長から依頼され, 幹事会を数回開いて検討, 5月29日開催の英文誌JMPS編集委員会で審議を行ったとの報告がなされた。編集委員会で報告内容は下記の通りで, これに基づき今臨時理事会の第3号から8号議案を提案する。

2020年度第4回JMPS編集委員会, 開催日時: 2021年5月29日(土) 13:00-13:45開催の編集委員会報告

開催場所: ZOOMにてオンライン開催

出席: 吉朝、黒澤、佐脇、井上、栗林、伴、大谷、Das、榎並、福山、宮脇、Satish、小木曾、角替、篠田、加藤、大和田、永井、下林、門馬、杉山、興野、JAMS、河上

欠席: 佐藤、奥寺、三河内、河野

報告事項 ○掲載状況, ○編集状況

- ・リジェクト率が高いので, エディター側でももう少し下げる努力をするよう編集長から依頼があった。
- ・編集長から, 特集号の企画の依頼があった。「はやぶさ」などはどうか? との話題が出た。
- ・JMPSとGKK, とともにオンライン化するのであれば合併する必要はないとの意見が多くてた

審議事項:

○JMPS事務移転可能性と財政健全化に関する動きと対応

○財政健全化に伴う, JMPS誌の発行形態の維持・変更について

○経費削減に向けた試み

< JMPS編集委員会審議結果 >

(1) 学会費用での英文校閲の中止 (総会終了後の投稿から該当)

(2) ページチャージ費用4,000円/頁の改正

会員6,000円, 非会員8,000円 (総会終了後の投稿から該当)

(3) ページチャージ30%割引の廃止 (総会終了後の請求書から該当)

クーポンに, 但し書きとして「改正があればそれに準ずる」という文言を一筆書いていますので。

(4) シニア会員ページチャージ無料は継続審議。(回数, 掲載ページの制限は未定)

(5) ページチャージにつく無料の別刷は廃止・・・理事会で決定する必要があるのでは? との意見出た。
 投稿規定改訂必要?

(6) オープンアクセス, CCライセンス内容の決定と英語文案・・・オンライン化のケリがついてから, とのことでした。

(7) 上記を反映した投稿規定の改訂を9月に行う方向で準備

(8) 上記, 承認事項を次回の臨時理事会に提案する。

- 第3号議案 JMPS誌での学会費用による英文校閲中止の件(吉朝英文誌幹事・理事)
- 第4号議案 JMPS誌のページチャージ費用改正の件(吉朝英文誌幹事・理事)
- 第5号議案 JMPS誌のページチャージ30%割引の廃止の件(吉朝英文誌幹事・理事)
- 第6号議案 JMPS誌の無料別刷の廃止の件(吉朝英文誌幹事・理事)

2021年7月27日(火)第3回臨時理事会での承認された内容は以下の通りです。

- ・第3号議案 JMPS誌での学会費用による英文校閲中止の件(吉朝英文誌幹事・理事)
吉朝英文誌幹事より, 報告事項3にもある通り, 刊行費の経費節減の一環として, JMPS誌での学会費用による英文校閲の中止が提案された。今年9月の総会終了後の投稿から適用予定で, 以後は投稿者の責任で校閲をお願いする形になる。審議の後, 異議なく承認された。
- ・第4号議案 JMPS誌のページチャージ費用改正の件(吉朝英文誌幹事・理事)
吉朝英文誌幹事より, 刊行費の経費節減の一環として, ページチャージ費用の改正が提案された。JMPS誌は, 現在, J-stageを通じて論文へのアクセスが非常に良くなっており, 利便性と受益者負担の観点から, 経費節減の観点からやむなく値上げを提案する。現行4,000円/頁のところを, 会員6,000円/頁, 非会員8,000円/頁とし, 今年9月の総会終了後の投稿から適用する予定。図版等のカラー化に伴う追加のページチャージについては今後検討する。なお, ページチャージは, 著者である支払い者が会員であれば会員価格適用, 著者である支払い者が非会員であれば非会員価格適用。JMPS誌は, 公開が速いのでオープンアクセスジャーナル的で, ページチャージというより公開費用ともみなせるが, この件は今後検討する。値上げによって海外からの非会員の投稿が減る可能性もあるが, 投稿者はできるだけ会員になってもらうという方針での値段設定である。以上について審議の後, 異議なく承認された。
- ・第5号議案 JMPS誌のページチャージ30%割引の廃止の件(吉朝英文誌幹事・理事)
吉朝英文誌幹事より, 会計状況改善の一環として, 投稿を促すサービスとして実施してきた「次回投稿のページチャージに対する30%割引クーポン」について, 今年9月の総会終了後から発行しないことが提案された。クーポンが廃止されても, 優れた論文に対する表彰制度などが設定されており, 会員の成果を広く知らせる重要な媒体であるので, 会員には引き続き積極的な投稿をお願いしたい。但し, 既に発行されたクーポンには有効期間2年間に明示されているため, 発行済みクーポンについては期間内有効とするとの修正を経て, 異議なく承認された。
- ・第6号議案 JMPS誌の無料別刷の廃止の件(吉朝英文誌幹事・理事)
吉朝英文誌幹事より, 現行のページチャージには無料別刷50部の著者配布のサービスが付随しているが, 電子ジャーナル化に伴い, その廃止が提案された。来年2022年1月からの実施を予定し, 関連する投稿規定についても改訂をする予定とのこと。提案は審議の後, 異議なく承認された。

3. 2021年5月29日(土)第2回定例理事会報告

報告事項

1. JMPS現状報告

1) 投稿数状況: [参考: 表1]

2) 編集状況: 早期公開中1編, 受理論文6編(6月号予定), 査読中:5編 返却中:3編, 投稿:1編

3) 発行状況: 116巻2号(4月号) 電子ジャーナル: May 14, 2021 Release, 冊子発送: 5月31日GKKと合わせて発送

116巻3号(6月号) 原著論文5編, Letter 2編(早期公開1編 印刷準備中6編 7月初旬WEB公開予定)

116巻4号(8月号) 未定

[参考: 表1] WEBシステム利用後の投稿数

[参考: 表2] 115巻3号(6月)~116巻2号(4月)

(2021年5月26日現在)

(2021年5月26日現在)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
Jan	3	2	2	5	2	4	7	5	5	1
Feb	2	2	1	2	2	0	2	1	0	0
Mar	2	0	4	2	2	7	3	1	1	5
Apr	2	3	1	5	3	12	5	5	3	1
May	4	0	3	5	4	3	4	3	1	1
Jun	12	6	9	4	3	5	2	3	2	
Jul	3	3	8	9	12	9	6	6	5	
Aug	5	2	1	7	1	2	2	12	3	
Sep	2	1	4	5	2	2	4	2	3	
Oct	14	11	16	9	3	4	3	10	2	
Nov	5	4	4	5	8	9	18	5	8	
Dec	3	2	6	5	2	4	2	5	2	
Total	57	36	59	63	44	61	58	58	35	8

論文種類	今回件数	2021/5/26	2020/5/21	2019/5/24	2018/5/18	2017/5/18
Reviews	0件	0 p	60 p		75 p	0
Articles	29件	338 p	308 p	260 p	246 p	174 p
Letters	5件	26 p	39 p	37 p	44 p	54 p
Technical	1件	5 p	11 p	11 p		
Editorial		1 p	2 p		1 p	1 p
Errata		1 p				
規程		3 p	5 p	5 p	5 p	4 p
Index		4 p	4 p	5 p	4 p	4 p
Contents		5 p	4 p	5 p	4 p	6 p
白頁		3 p	1 p	3 p	1 p	1 p
合計頁	386 p	434 p	326 p	380 p	244 p	
1号平均頁	6号分	6号分	6号分	6号分	4号分	
		64.3 p	72.3 p	54 p	63 p	61 p

4) 2019 JMPS Impact Factor: 0.764

(2018 1.472, 2017 1.030, 2016 0.409, 2015 0.648, 2014 0.742, 2013 0.656, 2012 0.589)

How is Journal Impact Factor Calculated?

$$\frac{\text{Citations in 2019 to items published in 2017(32) + 2018(23) 55}}{\text{Number of citable items in 2017(38) + 2016(34) 72}} = 0.7638$$

審議事項

1. JMPS編集委員会は, 理事会の後の開催になりますので, 次回報告させていただきます。

2. 2020JMPS学生論文賞結果報告と審議 JMPS学生論文賞選考委員会 委員長代理 河上 哲生

本年度のJMPS学生論文賞授賞候補論文につきまして当委員会で検討した結果, 下記の2論文を推薦することになりましたので, 選考理由とともにご報告申し上げます。

【第11回】対象論文: Assimilation and fractional crystallization of Sanukitic high-Mg andesite-derived magmas, Kyushu Island, southwest Japan: An example of the Cretaceous Shaku-dake diorite body. JMPS, 115-4, 323-347, 2020.

著者: Keisuke ESHIMA, Masaaki OWADA and Atsushi KAMEI

学生会員筆頭著者: 江島 圭祐(投稿時: 山口大D1)

推薦理由：本研究は、北九州に分布する白亜紀尺岳閃緑岩体について、野外地質調査、詳細な岩石記載、主要元素・微量元素分析、SrおよびRb同位体分析などの地球化学的手法を用い、岩石成因と起源の詳細な解明を行った。そして、この時期の北九州における花崗岩類と同様、本岩体も、高温のマントルウェッジ起源のHMAないしは玄武岩マグマの底付けによる下部地殻の部分溶融により形成できることを示した点で重要な成果といえる。

【第12回】対象論文：Serpentine enigma of the Rakhadev lineament in western India: Origin, deformation characterization and implications. JMPS, 115-2, 216-226, 2020.

著者：Dyuti Prakash SARKAR, Jun-ichi ANDO, Kaushik DAS, Anupam CHATTOPADHYAY, Gautam GHOSH, Kenji SHIMIZU and Hiroaki OHFUJI

学生会員筆頭著者：SARKAR Dyuti Prakash (投稿時：広島大D3)

推薦理由：本研究は、従来起源の解明が困難であったインド西部のRakhadev蛇紋岩に対し、野外調査と組織記載、構成鉱物に対するラマン分光分析やEPMA分析、EBSD分析を適用し、これが上部マントル起源であること、および2段階の変形を受けたことを示した。蛇紋岩の総合的な解析にもとづき、蛇紋岩体の起源や変形・メタソマティズム履歴の制約のみならず、過去のテクトニクスの議論に至った点は高く評価できる。

4. 2020年9月21日第1回理事会報告

吉朝委員長から、2020年9月16日(水) 18:00-19:00に開催された2020年第2回JMPS編集委員会(ZOOM会議)について以下の報告がなされた。

<委員会報告事項>

1. JMPS現状報告(2020年9月16日現在)

(1) 投稿数状況: 2020年5月24日以降11編投稿: 原著論文6編(インド1編, 中国1編), Letter 2編, リジェクト3編(ベトナム1編, 中国1) 2020年は1月5件, 2月0件, 3月1件, 4月3件, 5月1件, 6月2件, 7月5件, 8月3件, 9月1件で9月までの合計は21件。(2) 編集状況: 早期公開中2編, 印刷中2編, 受理論文5編, 査読中5編, 返却中6編 (3) 発行状況: 115巻3号(6月号) 電子ジャーナルJune 24, 2020公開中, 冊子6月27日発送済, 115巻4号(8月号) 電子ジャーナルAugust 18, 2020公開中, 冊子8月21日発送済, 15巻4号(10月号) 早期公開中2編, 印刷中2編, 受理論文印刷準備中2編, 115巻5号(12月号) 受理論文3編 (4) 2019 JMPS Impact Factor: 0.764 (2018 1.472, 2017 1.030, 2016 0.409, 2015 0.648, 2014 0.742, 2013 0.656, 2012 0.589)

(2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催事業

【1】行事報告・年会報告(磯部行事幹事)

1. 一般社団法人日本鉱物科学会 2020年年会・総会報告 (磯部行事幹事・理事)

日程：2020年9月16日(水)～9月18日(木) 会場：東北大学新青葉山キャンパス環境科学研究科本館)

2020年9月16日(水)より9月18日(金)まで開催の一般社団法人日本鉱物科学会2020年会・総会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため予定していた東北大学新青葉山キャンパス環境科学研究科本館において、での現地開催を中止し、オンラインにて開催した。

(経過)

4月中旬 例年通り開催予定として年会案内を作成。但し、状況によって年会開催の可否について判断する旨注記を加えた。

5月7～15日 各セッションコンピーナー等に、オンライン開催についてアンケート実施

5月23日 2019年度第2回理事会に仙台開催を中止する旨提案し、了承される

5月27日 現地開催断念について、メールニュースにて告知

5月末～6月上旬 オンライン年会の詳細について検討

ポスター発表は行わず、オンライン口頭発表および要旨のみの発表とすること、投稿料のみとすること等を決定。

投稿料：会員 一般 ¥4000, 学生 ¥2000, 非会員 一般 ¥6000, 学生 ¥3000, オンラインによる聴講のみ参加は無料

6月23日 当初予定の日程にて、オンライン年会・総会を行う旨、予定として告知

6月29日 2019年度第3回理事会にて、オンライン年会の開催について承認

7月20日(月)～31日(金) メールによる演題及び発表セッション申込み、後、締切を8月3日(月)まで延長

8月6日 コンピーナーへ発表採否、プログラム編成依頼

8月19日 発表申込者へ要旨提出サイト案内通知

8月24日～31日(月) 要旨提出

8月31日 投稿料払込締切

9月10日 オンライン年会参加申し込み締切

9月14日 プログラム、要旨公開、オンライン年会サイトについて通知

(実施)

日程：2020年9月16日(水)～18日(金) (当初予定通り)

発表申込数 オンライン口頭発表 45件, 要旨による発表 55件 合計100件

9月16、17日 並行セッションは行わず、Zoom会議室1室でのオンライン口頭発表

9月18日 総会、授賞式、受賞講演、理事会

参加者数(発表者): 会員 一般 56名, 学生 34名, 非会員 一般 2名, 学生 8名, 計 100名 収入合計 ¥328,000

ZOOM参加者数: 9月16日201名, 9月17日195名, 受賞者講演107名

支出: Confit基本料金110,000円、ZOOM使用料9,570円、総会会場光熱費1,504円 計 ¥121,074 剰余金 ¥206,926

2. 2020年9月18日第1回理事会審議

(1) 2021年年会開催日程について (磯部行事幹事・理事, 説明: 井上2021年年会LOC委員長・理事)

磯部行事幹事より、2020年8月29日の第4回理事会にて、2021年年会開催地が広島大学東広島キャンパスに決定した経緯の説明がなされ、続いて井上2021年年会LOC委員長により、以下の2021年年会開催日程案と2020年度定時総会開催日案が提示され、異議なく承認された。

2021年年会開催日程案: 2021年9月16日(木) - 18日(土)

2020年度定時総会開催日: 2021年9月17日(金), 場所: 広島大学東広島キャンパス理学部棟大講義室

なお、井上LOC委員長から、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンライン配信併用を含めた形式で開催できるよう準備する旨、報告があった。

なお、宮脇会長から 年会開催中の展示と業界セミナーの件、一般普及講演開催の件、今後の年会のあり方としてのオンライン配信併用形式年会開催の件、について検討するよう指示があった。また、吉朝理事からはユネスコの2022鉱物学年に関連する行事を2021年の一般普及講演に盛り込む提案も出され、井上LOC委員長から、今後行事委員会と共に検討していくことが述べられた。

(2) 2022年年会開催地決定のためのスケジュールについて（磯部行事幹事・理事）

磯部行事幹事より、2022年年会開催地について現在検討中であり、開催地検討期間に猶予が必要との説明があり、開催地決定時期について、年会準備の都合上遅くとも2020年の年内に臨時理事会（WEB）を開催して開催地を決定する提案がなされ、異議なく承認された。

3. 2020年12月7日第1回臨時理事会 報告

2022年年会開催地として新潟大学関係者に打診したところ、ご了承を頂きましたので、2022年年会を新潟大学で小西博巳会員を運営委員長として開催することを提案いたします。

4. 2021年5月29日第2回理事会報告（磯部行事幹事・理事）

1) 日本地球惑星科学連合2021年大会JpGU Meeting 2021：日程が延期され、2021年5月30日(日)～6月6日(日)に開催。開催方法は昨年引き続きオンライン大会となった。

2) 2021年年会の開催について（磯部行事幹事・理事、井上2021LOC委員長・理事）

日本鉱物科学会 2021年年会・総会については、会告、年会HPにて概要次の通り告知した。

日程：2021年9月16日(木)～18日(土)

会場：広島大学 東広島キャンパス 理学部E棟 〒739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1

形態：現地とオンラインによるハイブリット形式、オンラインによる口頭発表にも対応する

ポスター発表は原則すべてConfitを利用するオンラインeポスターとする

スペシャルセッション

継続開催となる「火成作用の物質科学」、「岩石 水相互作用」に加え、「東アジアのテクトニクス」及び「プレート収束域の物質科学」を開催する

一般普及講演：「はやぶさ2」

9月19日(日) 13:00～広島大学東広島キャンパス理学部E棟（一般市民に対してはオンライン配信）

巡検・見学会等は開催しない

参加登録費 昨年度当初予定と同額

事前料金：一般会員 7,500円 学生会員 3,500円、非会員（一般）12,000円 非会員（学生）6,000円

当日料金：一般会員 8,500円 学生会員 4,000円、非会員（一般）13,000円 非会員（学生）6,500円

講演申込み期間：2021年6月23日(火)10:00～7月14日(水)20:00まで

3) 2022年年会(新潟大学)運営委員長簿提出

（磯部行事幹事・理事、小西2022LOC委員長）

2022年年会 現地運営委員：委員長 小西博巳(新潟大学)、高澤栄一、M. Satish-Kumar、高橋俊郎(以上、新潟大学)、小河原孝彦、宮島宏(以上、フォッサマグナミュージアム)

5. 2021年7月27日第3回臨時理事会報告（磯部行事幹事・理事）

(1) 磯部行事幹事より、2021年年会については、十分な参加申し込みを頂き、準備も順調に進んでいる旨の報告がなされた。また、2022年年会については、新潟大学LOCの小西委員長を通じ、地球化学会開催と惑星科学会開催の間となる9月17日(土)から19日(月)の日程で会場を予約、9月20日に 糸魚川方面の巡検を準備中との連絡を受けているとの報告がなされた。

(2) 今年9月の広島大学での年会に関して、広島大では新型コロナウイルス感染防止への対策がきちんとしているので、安心して現地参加できる旨のアナウンスを会員に対して行っても良いのではとの意見があったが、現状では緊急事態宣言など9月の時点での感染状況を見通すことが難しいため、8月末の状況を見て検討することになった。なお、現地参加を強く勧めるというニュアンスではなく、オンラインでも現地参加でも学术交流が十分可能な状況に準備してあるので、積極的な参加をお願いしたいというアナウンスである。

6. 2021年8月17日(火)第4回臨時理事会報告（磯部行事幹事・理事）

(1) 2021年年会の一般普及講演会を日本惑星科学会との合同開催とする件（磯部行事幹事・理事、説明：井上LOC委員長・理事）

2021年年会の一般普及講演会について、日本惑星科学会会員の方にもご講演いただくことから、正式に日本惑星科学会との合同開催として開催したいとの連絡を受けました。日本惑星科学会側の承認は得られており、鉱物科学会側に追加の費用負担等はありませんので以下の様に開催を予定しました。審議の後承認された。

-----日本鉱物科学会・日本惑星科学会合同開催一般普及講演会-----

はやぶさ2：小惑星リュウグウ探査6年間の旅、そして地上サンプル分析と新たな旅へ

開催日時：2021年9月19日(日) 13:00～15:00

会場：広島大学 東広島キャンパス(理学部E棟E102)、名古屋市立大学田辺通キャンパスからライブ配信

講演者：渡辺 誠一郎 先生(名古屋大、日本惑星科学会会員)

津田 雄一 先生(JAXA、日本惑星科学会会員)

橘 省吾 先生(東大、日本物科学会会員、日本惑星科学会会員)

対象：一般市民(オンライン配信)及び学会員

参加費：無料(ZOOM配信：学会員は現地参加可)

参加申込：フォームズを利用して申込サイトを作成

共催：広島大学「プレート収束域の物質科学研究拠点」、賛助：マツダ財団(助成金20万円)

(2) 2021年一般普及講演会の日本惑星科学会との合同開催と広島大学「プレート収束域の物質科学研究拠点」共催に関する承認の件報告事項で報告した通り、日本惑星科学会との合同開催の件および広島大学「プレート収束域の物質科学研究拠点」との共催の件について、以下の規定に則り、ご承認をいただきたくご審議をお願いします。審議の後承認された。

運営細則第21条：年会以外の講演会、討論会、講習会等は行事幹事が企画立案し、理事会の承認を経て行われる。また、他学会と共催する講演会等は理事会の承認を必要とする。

7. 2021年8月28日第3回定例理事会報告

・2021年年会(広島大学)のコロナ禍と自然災害対応について（磯部行事幹事・理事、井上2021LOC委員長・理事）

報告事項でもご報告致しましたが、新型コロナウイルス感染の感染状況によっては、年会の開催形態や開催準備を変更する可能性があります。このように、状況に応じて判断することを広島大LOCと行事委員会に一任していただくことをご提案させていただきます。ご審議の程、お願い致します。変更につきましては、会告でお知らせする予定です。

また、総会・理事会等にもオンラインで出席する会員については、参加登録費をお願いする事は難しいので、無料とすることを提案させていただきます。ZOOMのURLを年会セッションとは分けることで、会合のみの参加にも対応可能かと思えます。ご審議の程、お願い申し上げます。

【2】広報報告(大藤広報幹事・理事)

1. 2021年5月29日第2回理事会報告

1. 会員へのML送信

事務局が担当し、2020年は総会以降に3件、2021年は現在までに4件配信した。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会案内などのほか、小惑星探査機「はやぶさ2」の地球帰還を受けての声明文やコメント動画(土山会員)のリンクも掲載。

2. 2019年の各賞受賞者に受賞にあたってのコメント動画の作製を依頼。対応いただいた小松会員の受賞コメント動画をHPで紹介。今後とも協力いただける受賞者の方にはコメント動画にご協力いただき、HP上(受賞者一覧からリンクで飛ぶ?)で紹介することを検討。

3. 学会HPとシンク口させながらFacebook, twitterを随時更新。

4. 2021年連合大会のオンラインブース展示

JpGUブース担当の斉藤委員およびその周辺の会員の協力により、昨年に引き続きオンラインコンテンツ(動画:大学における実習風景、鉱山の坑道内レポート、岩石を割断する様子、ハワイの溶岩、一家に1枚「鉱物」ポスターの宣伝など)を充実させた展示を準備中。ブース宣伝のための30秒CMにもエントリー。また、クイズラリーにも申し込み、景品としてヒスイ輝石(3個)、スピネル結晶(20袋)を提供。

5. 株式会社えにさむより当学会の活動内容を紹介・発信するための取材申し込みがあった。先方担当者との目的や取材内容、形式などを詰め、近くオンラインで取材を受ける予定。主に、会長および広報幹事で対応予定。

2. 2021年8月28日第3回理事会報告

1) 会員へのML送信:事務局担当で、2020年は総会以降に3件、2021年は8/24時点で9件配信した。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会案内(協賛イベント情報)など。7/28のメールニュースではGKK, JMPSの完全電子化についての理事会報告を周知した。そのほか、小惑星探査機「はやぶさ2」の地球帰還を受けての声明文やコメント動画(土山会員)のリンクも掲載した。

2) 2021年連合大会において、Confitを利用したオンラインブース展示を行った。学会の活動内容(活動概要、学会誌、年会、入会案内など)の紹介や鉱物の性質(劈開、モース硬度、蛍光)について紹介する動画を愛媛大学の会員に協力していただき作成し、昨年度作成した動画と併せて公開した。また、ZOOMを利用した鉱物に関するライブ実験を2回行い、好評を得た。公式SNS(Twitter, Facebook)も活用した宣伝の効果もあり、223名の来場者と延べ328回の閲覧があった(大会展示担当の集計)。そのほか、クイズラリーにも参加し、その賞品としてヒスイ、スピネル砂を提供した。

3) 株式会社「えにさむ」より、学会の取り組みや活動内容、社会との関わりなどに関する取材依頼があり、宮協会長と広報幹事の大藤で対応した。取材内容は、同社のホームページの「古イ未来」というコーナーで紹介される予定。

4) 8/20にZOOMによる広報委員会を行い、今後の広報活動の在り方、方向性について議論を行った。公式SNS(Twitter, Facebook)とYouTube(動画コンテンツ)を活用した広報展開を強化してゆく方針で一致した。公式YouTubeチャンネル担当として、広報委員をもう1名追加することを検討している。SNSによる会員、非会員へ向けた情報発信を増やすため、会員による新しい発見や重要な研究成果など(プレスリリース記事へのリンクなども)を学会公式SNSを通じて発信する試みを近く開始する予定。

5) 鉱物科学分野に関係の近い民間企業がリクルート情報などを掲載できるよう、専用窓口をホームページ上に整備することを検討している。また、そうした企業と学生会員とが相互に交流・意見交換のできる懇談会を年会などに合わせて企画することも考えている。

【3】渉外報告(永島渉外幹事・理事)

1. 2021年8月28日第3回定例理事会報告 永島渉外幹事・理事

「宝石切手」の件:この件は、2019年6月に日本宝石協会から協力要請があり、2019年度第2回定例理事会で協力が了承され、2021年6月21日に日本宝石協会 宝石切手委員会 松室明雄委員長より切手用写真の提供依頼があった。選定条件が限定的であったこと、締切まで非常に短期間であったことから、宮協会長らと相談の上、博物館に所属する日本鉱物科学会会員を中心に個別に対応を依頼した。6月末までにJAMS会員から提供された写真を日本宝石協会 松室委員長に提出し、その後、他の連名団体(日本ジュエリー協会、宝石学会、日本宝石協会)提供の写真と合わせて、日本郵政と日本宝石協会による1次・2次選考が実施された。現時点で当学会から提出された写真2枚が選定されており、日本郵政のデザイナーによる作業が進行中。

【4】Elements報告(森下Elements幹事)

1. 2020年12月7日第1回臨時理事会報告 Element 誌の2021年予算承認・加盟学会交代などの案件(宮協会長)

11月18日午後(日本時間19日深夜)、Elements誌の各加盟学会の会長による Executive Committee Meeting が Online にて開催されました(添付資料1)。昨今のコロナ禍やペーパーレスが進む状況下で、Elements誌の運営に関する下記の案件について、加盟学会の賛否意向を決めて12月15日までに回答するように求められています。

(案件)

1) 全加盟学会の2020年下期(7月請求の8, 10, 12月分)の分担金の免除(今回限りについて)。

2) 2021年の予算案の承認。

3) the Swiss Society of Mineralogy and Petrology に代わりthe Swiss Geological SocietyをElements誌加盟学会とする申請。

(補足)

・2020年はコロナ禍の影響で広告費等収入が当初予算より大幅に少ない状況ですが、これまでの累積黒字によって、2020年下期の加盟学会分担金を免除する財政的余裕があります。

・2021年予算案は、広告費等減少の復旧改善と加盟学会の分担金免除は考慮せず、収支ともに、2020年当初予算と、2020年補正予算のほぼ中間値になっています。

(提案)

そこで、当会といたしましては、分担金免除に賛成すると共に、大きな状況変化の場合を除いて2021年予算案を基本的に承認すること、加盟学会の交代を承認する、という方針で回答することを提案いたします。

2. 2021年5月29日第2回理事会報告 森下Elements幹事

既に6月号までの下記の下記の原稿をElementsに入稿・準備済みです。

2021 vol.17 No.1 宮協IAMS新会長挨拶 発行済み

2021 vol.17 No.2 西山会員他の日本産ダイヤモンド紹介記事(データをElementsに提出済み)

2021 vol.17 No.3 富岡会員の最新鉱物紹介記事(原稿はもっています)

3. 2021年7月27日第3回臨時理事会報告 森下Elements幹事

Elements事務局より、「今後、Elements冊子不要の会員は、オンラインアクセス権だけを選択できるようになった」という連絡がありました。今までは、冊子体とオンラインアクセスがセットで、どちらかを選択することはできませんでした。但し、オンラインアクセス権だけの希望者もElementsに支払う費用は変わらないとのこと。このため、当学会会員に「オンラインアクセス権だけの希望者」を募

る必要はないと考えられますが、会員への対応について、出席理事に対し、当学会会員にこの件をアナウンスし、「オンラインアクセス権だけの希望者」を募るかどうか意見を求めたところ、必要性は無いとの総意であったので、この件については特にアナウンスしないことになった。

(3)研究の奨励及び業績の表彰 (黒澤庶務幹事・理事)

【1】2020年度日本鉱物科学会賞表彰

- 第24回受賞者：三河内 岳 会員（東京大学 総合研究博物館 研究部）
業績題目：地球外物質の鉱物学的研究による太陽系における天体進化プロセスの解明
第25回受賞者：辻森 樹 会員（東北大学 東北アジア研究センター）
業績題目：プレート境界岩総合解析によるオロゲン地質記録と変成プロセスの研究

【2】渡邊萬次郎賞表彰

- 第37回受賞者：溝田 忠人 永年会員

【3】2020年度日本鉱物科学会論文賞表彰

- 第23回受賞論文
Title: High-temperature Raman spectroscopic study of CO₂-containing melanophlogite, JMPS, 114, 122–129, 2019.
Author: Masami KANZAKI
受賞者：神崎正美会員
第24回受賞論文
Title: High resolution X-ray computed tomography and scanning electron microscopy studies of multiphase solid inclusions in Oman podiform chromitite: implications for post-entrapment modification, JMPS, 115, 247–260, 2020.
Authors: Yuan YAO, Eiichi TAKAZAWA, Sayantani CHATTERJEE, Antonin RICHARD, Christophe MORLOT, Laura CRÉON, Salim AL-BUSAIDI, Katsuyoshi MICHIBAYASHI, Oman Drilling Project Science Team
受賞者：高澤栄一会員、道林克禎会員

【4】2020年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

- 第29回受賞者：田阪 美樹会員（静岡大学理学部地球科学科）
研究対象：マントルにおける物質移動メカニズムを解明するための岩石鉱物物理研究
第30回受賞者：瀧川 晶会員（東京大学大学院理学系研究科）
研究対象：「銀河系における物質循環に関する研究」

【5】2020年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

- 第13回受賞者：田村 堅志 氏（国立研究開発法人物質・材料研究機構）
受賞題目：雲母・粘土鉱物を応用したナノコンポジット材料と有害物質吸着剤の開発

【6】2020年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

- 第11回受賞論文：Keisuke ESHIMA, Masaaki OWADA and Atsushi KAMEI, Assimilation and fractional crystallization of Sanukitic high-Mg andesite-derived magmas, Kyushu Island, southwest Japan: An example of the Cretaceous Shaku-dake diorite body. JMPS, 115-4, 323-347, 2020.
受賞者：江島 圭祐（投稿時：山口大D1）
第12回受賞論文：Dyuti Prakash SARKAR, Jun-ichi ANDO, Kaushik DAS, Anupam CHATTOPADHYAY, Gautam GHOSH, Kenji SHIMIZU and Hiroaki OHFUJI, Serpentine enigma of the Rakhaddev lineament in western India: Origin, deformation characterization and tectonic implications. JMPS, 115-2, 216-226, 2020.
受賞者：SARKAR Dyuti Prakash（投稿時：広島大D3）

【7】2020年年会研究発表優秀賞表彰

- 第54回受賞者：富岡優貴（名古屋大・院環境）R8-08：石英-藍晶石系を用いたラマン地質圧力計：
四国三波川帯・石英エクロジヤイトの例
第55回受賞者：森 悠一郎（東大・院理）R3-01：差応力場におけるFe₂SiO₄ のオリビーンスピネル相転移機構と変形の局所化
第56回受賞者：吉田一貴（東北大・院環境）S2-03：オマーンオフィオライト下部地殻 マントル境界の蛇紋岩化プロセスに伴う
き裂形成：数値シミュレーションと画像解析による考察
第57回受賞者：松野哲士（東北大・院環境）S2-04：機械学習による原岩推定を用いた変成岩の物質移動量解析

【8】研究奨励賞規定の年齢制限の改正

日本鉱物科学会研究奨励賞の受賞対象者に関し、規定の第2条の「37歳以下」という年齢制限に加え、「博士号取得10年以内、ただし、育児や介護、本人の病気等により研究に従事できなかった期間については勘案する。」と改正することが提案された。審議の上、下記の文言とすることで、異議なく承認された。

日本鉱物科学会研究奨励賞規定

（現行）第2条 本会に日本鉱物科学会研究奨励賞（以下本賞）というを設け、鉱物科学およびその関連分野において顕著な研究業績をあげた当該年度4月1日時点で37歳以下の若手の会員に対し、本賞を贈呈する。

（改正）第2条 本会に日本鉱物科学会研究奨励賞（以下本賞）というを設け、鉱物科学およびその関連分野において顕著な研究業績をあげた当該年度4月1日時点で37歳以下あるいは博士号取得10年以内（ただし、育児や介護、本人の病気等により研究に従事できなかった期間については勘案する）の会員に対し、本賞を贈呈する。

【9】研究発表優秀賞受賞者の支援金申請期間延長

コロナ禍の影響で海外の学会等への成果発表参加や海外での調査・研究ができない状況にあるので、海外渡航支援金を受ける期間を、

受賞1年以内との規定から「原則として受賞1年以内とし、事情によっては選考委員会に申し出ることによって延長できる」と改正することが提案された。審議の上、下記の文言とすることで、異議なく承認された。

- E. 研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン
(海外渡航支援制度の内容)
(現行)7. 海外渡航支援を受ける期間は、受賞から1年以内とする。
(改正)7. 海外渡航支援を受ける期間は、受賞から原則として1年以内とする。

(4) 本会の目的を達成するために必要な事業

【1】 庶務報告 (黒澤庶務幹事・理事)

- 1) 2020年度幹事会、理事会開催、準備、調整、監査立ち合い
(日時調整、議題作成、議事録作成、総会招集通知資料作成、発送、総会議事録作成、第2回理事会会場準備、ZOOM会議準備)
第1回定例理事会ZOOM開催：2020年 9月18日(金)13:30-15:00：東北大学理学部理学合同A棟 4階402室日本鉱物科学会事務局
第1回臨時理事会ZOOM開催：2020年12月 7日(月)13:00-14:00：東北大学理学部理学合同A棟 4階402室日本鉱物科学会事務局
第2回臨時理事会(決議の省略による)：2020年12月14日(月)
第2回定例理事会ZOOM開催：2021年 5月29日(土)10:30-12:45：国立科学博物館会議室
第3回臨時理事会ZOOM開催：2021年 7月27日(火)18:00-19:01：国立科学博物館総合研究棟 4階 地学研究部長室
第4回臨時理事会ZOOM開催：2021年 8月17日(火)12:00-12:30：国立科学博物館 地学研究部長研究室
第3回定例理事会ZOOM開催：2021年 8月28日(土)14:00-16:00：国立科学博物館地学研究部長研究室
一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い：2021年8月28日(土)10:30-12:00 於：日本鉱物科学会事務局
2019年度定時総会現地+ZOOM開催：2020年9月18日(金)9:00-10:10 於：東北大学新青葉山キャンパス環境科学研究科本館大会議室
2020年度定時総会現地+ZOOM開催：2021年9月17日(金)9:00-10:10 於：広島大学東広島キャンパス理学部E棟1階 E102教室
 - 2) 連合への各種対応
 - 3) 後援、共催、協賛の承諾
 - 4) 会員への連絡、はやぶさ声明文
 - 5) 表彰に関する件：第12回2020年度日本学術振興会「育志賞」受賞候補者推薦 候補者推薦なし
 - 6) 令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞および研究支援賞受賞候補者の-学会内-推薦なし
 - 7) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法(メール等)採用への同意お願い
 - 8) 一社日本鉱物科学会2020年度定時総会(2021/09/17開催)の事前お知らせ
 - 9) 理事会開催準備、連合への対応、後援・共催・協賛対応、会員への連絡、事務局管理など。
 - 10) 地球惑星科学分野大型研究計画のヒアリング実施のお知らせ。
 - 11) 事務局管理：覚書作成、勤務管理、新型コロナウイルス感染拡大で宮城県緊急事態宣言による事務局在宅勤務への対応。
 - 12) 法人役員交代による法人変更届資料作成、理事兼業申請、各幹事・委員会委嘱依頼、兼業申請
 - 13) 学会会議に対する声明文対応
 - 14) 2020年度 役員 各委員会委員報告
- <理事(22名)>
会長(代表理事)：宮脇律郎、副会長(代表理事)：大和田正明
理事：安東淳一、阿部なつ江、井上 徹、池田 剛、磯部博志、大藤弘明、鍵 裕之、片山郁夫、川本竜彦、河上哲生、
栗林貴弘、黒澤正紀、辻森 樹、土屋範芳、永嶋真理子、長瀬敏郎、伴 雅雄、三宅 亮、塚本尚義、吉朝 朗
監事：小暮敏博
- <幹事会>
会長：宮脇律郎、副会長：大和田正明、庶務幹事：黒澤正紀(理事)、会員幹事：阿部なつ江(理事)、会計幹事：栗林貴弘(理事)、行事
幹事：磯部博志、和文誌編集幹事：長瀬敏郎(理事)、英文誌編集幹事：吉朝 朗(理事)、渉外幹事：永嶋真理子(理事)、広報幹事：大
藤弘明(理事)、Elements:森下知晃、特務幹事(細則等検討担当)：大和田正明(理事)、地球惑星科学連合2020年度学会選出プログラム
委員：門馬綱一(正)・西原 遊(副)、地感連合連絡担当：阿部なつ江(理事)、三鉱連絡委員：黒澤正紀、磯部博志
- <行事委員会>
委員長：磯部博志(行事幹事・理事)、副委員長：池田 剛
委員：越後拓也、岡本 敦、鍵 裕之、片山郁夫、瀬戸雄介、寺崎英紀、湯口貴史
- <岩石鉱物科学編集委員会>
委員長：長瀬敏郎(和文誌編集幹事・理事)、副委員長：高澤栄一
委員：阿部なつ江、荒川洋二、遠藤俊祐、大藤弘明、掛川 武、興野 純、久保友明、栗谷 豪、栗林貴弘、
小暮敏博、近藤 忠、下林典正、中村美千彦、永嶋真理子、野口高明、瀧田麻希、林信太郎、伴 雅雄、
坂野靖行、星出隆志、三宅 亮、宮原正明、門馬綱一、塚本尚義、吉朝 朗
- <JMPS編集委員会>
委員長：吉朝 朗(英文誌編集幹事、理事)、副委員長：M. Satish-Kumar、永井隆哉、河上哲生、
委員：伴 雅雄、Kaushik Das、榎並正樹、福山繭子、市山祐二、井上 徹、加藤丈典、河野元治、木村純一、小木曾哲、
栗林貴弘、興野 純、三河内岳、門馬綱一、中村美千彦、小畑正明、大谷栄治、奥寺浩樹、大和田正明、佐藤 努、
佐脇貴幸、篠田圭司、下林典正、杉山和正、角替敏昭、宇都宮聡
Jung Ho Ahn, Richard J. Arculus, D. Chandrasekharam, Ming Chen, Moonsup Cho, Alexander Khanchuk, Anhuai Lu, Joseph R. Smyth
- <渉外委員会>
委員長：永嶋真理子(渉外幹事・理事)
委員：栗谷 豪(火山)、辻森 樹(地質)、川添貴章(高压)、森下知晃(岩石)、宇都宮聡(環境)
- <広報委員会>
委員長：大藤弘明(広報幹事・理事)
委員：梶谷 浩(HP担当)、齊藤 哲(JpGUブース展示担当)、石橋秀巳(Twitter担当)、浜田麻希(Facebook担当)、
延寿里見(YouTube担当)、黒澤正紀(庶務幹事)
- <Elements委員会>
委員長：森下知晃(Elements幹事)、副委員長：瀬戸 雄介
委員：宇都宮聡、奥村 聡、片山郁夫、興野 純、小松一生、新名良介、橘 省吾、寺崎英紀、中野伸彦、門馬綱一、
横山 正(サイエンスボード)

Society News Editor : 森下知晃

Executive Committee Member : 宮脇律郎 (会長)

学会役職指定委員: 黒澤正紀 (庶務), 長瀬敏郎 (GKK), 吉朝 朗 (JMPS), 磯部博志 (行事), 永島真理子 (渉外), 大藤弘明 (広報)

< 将来企画委員会 >

委員長: 大和田正明 (副会長), 副委員長: 大藤弘明

委員: 森下知晃, 阿部なつ江, 井上徹, 鍵裕之, 中村美千彦, 河上哲生, 中野伸彦, 永島真理子

諮問に係る幹事: 黒澤正紀 (庶務), 栗林貴弘 (会計), 長瀬敏郎 (和文誌), 吉朝朗 (英文誌)

オブザーバー: 宮脇律郎 (会長)

< 細則等検討委員会 >

委員長: 大和田正明 (特務幹事細則等検討担当)

委員: 角替敏昭, 川本 竜彦, 亀井淳志, 黒澤正紀

< 新鉱物・命名・分類委員会 >

委員長: 門馬綱一

委員: 上原誠一郎, 小林祥一, 清水正明, 白勢洋平, 浜根大輔, 坂野靖行, 豊 遙秋, 松原 聡, 宮脇律郎

< 教育普及委員会 >

委員長: 林信太郎, 委員: 貴治康夫, 宮嶋 敏, 川手新一, 長瀬敏郎

< 博物館委員会 >

委員長: 坂野靖行, 委員: 宮脇律郎, 長瀬敏郎, 森 康, 小河原孝彦

< 日本鉱物科学会賞選考委員会 >

委員長: 土屋範芳, 副委員長: 井上 徹

委員: 奥地拓生, 寅丸 敦志, 鍵 裕之, 川本竜彦, 糀谷 浩, 佐藤 努, 中村美千彦, 永井隆哉, 宮脇律郎 (会長)

< 渡邊萬次郎賞選考委員会 >

委員長: 黒澤正紀, 副委員長: 長瀬敏郎

委員: (2期目継続委員4名): 黒澤正紀, 鍵 裕之, 永井隆哉, 宮脇律郎

(1期目委員4名委員長指名): 高木哲一, 伴 雅雄, 長瀬敏郎, 吉朝 朗

< 日本鉱物科学会論文賞選考委員会 >

委員長: 富岡尚敬, 副委員長: 糀谷 浩

委員: (2期目継続委員5名): 磯部博志, 大藤弘明, 黒澤正紀, 永井隆哉, 富岡尚敬

(1期目委員5名委員長指名): 糀谷 浩, 伴 雅雄, 辻森 樹, 石丸聡子, 越後拓也

< 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会 >

委員長: 長瀬敏郎, 副委員長: 河上哲生

委員: (2期目継続委員5名): 川本竜彦, 高澤栄一, 辻森 樹, 長瀬敏郎, 伴 雅雄

(1期目委員5名委員長指名): 河上哲生, 大場 司, 井上 徹, 三宅 亮, 小松一生

< 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会 >

委員長: 佐藤 努, 副委員長: 川野 潤

委員: (2期目継続委員5名): 佐藤 努, 富岡尚敬, 長瀬敏郎, 宮脇律郎, 門馬綱一

(1期目委員5名委員長指名): 池田 進, 奥寺浩樹, 川野 潤, 中塚晃彦, 森本和也

< 櫻井賞選考委員会 >

委員長: 松原 聡, 委員: 清水正明, 長瀬敏郎, 坂野靖行, 宮島 宏, 宮脇律郎

< 研究発表優秀賞選考委員会 (2021年5月29日第2回理事会承認) >

1期目委員: 吉田健太 (副委員長), 杉浦悠紀, 湯口貴史, 糀谷 浩, 星出隆志, 川本竜彦 (理事)*

2期目委員: 吉村俊平 (委員長), 篠崎彩子, 富岡尚敬, 中村 佳博

(2期目委員任期: 2021年9月18日まで; *川本委員は1年任期で交代予定)

< 2021年年会運営委員会 >

委員長: 井上 徹, 副委員長: 片山郁夫

委員: 安東淳一, 柴田知之, 早坂康隆, 宮原正明, 川添貴章, DAS Kaushik, 大川真紀雄, 柿澤 翔, 芳川雅子, 横山 正, 前田 誠, 河田尚美 以上14名

磯部博志行事委員会委員長, 池田 剛行事委員会副委員長

15) 2020年12月7日第1回臨時理事会報告

・ 学術会議に対する声明文

先日学術会議声明文に付きまして、賛同学会として参加してほしいとの依頼が日本地球惑星科学連合からありましたが、鉱物科学会の統一した総意としての賛同を取り付けることは難しかったため、参加は見送りとなりました。今後学会として賛同するとしても時機を逸しております。そこで、今後ご賛同いただく場合は、個人として署名活動等に参加される形にしたいと提案いたします。

・ 持続化給付金申請について

新型コロナウイルス感染症拡大により、営業自粛等で特に大きな影響を受ける事業者に対して、事業の継続を支え、再起の糧とするため、事業全般に広く使える給付金が公的に整備されています。支給対象として、中小法人を対象としたものには法人化した学会も含まれます。申請の要件は、「前年同月比で事業収入が50%以上減少した月」があることです(会費収入・補助金等は除く)。当会では、年会の開催月の段階で事業収入が前年同月比で50%以上減少となりましたが、社会的道義を考慮し、申請について控えております。今後この方針を続ける方向を提案させていただきます。

16) JpGUダイバーシティ推進委員会委員推薦の件

現委員の土屋理事と阿部理事(JpGU連絡委員)から、JpGUダイバーシティ推進委員会委員について既にJpGU当委員会委員である浜田盛久会員(JAMSTEC)を今回土屋委員の交代委員として当学会から推薦することについて説明がなされ、学会推薦は異議なく承認された。

2. 2021年8月28日第3回定例理事会審議事項

「社員総会の日時, 場所, 議題・議案の決定」は法令で決められている理事会決議事項で、総会日時と場所の理事会決定は重要な案件です。「社員総会の日時, 場所, 目的事項(議題, 議案)の決定」は法令で定められている理事会決議事項です。

総会の議題・議案について(2020年度総会資料 決算及び事業報告)

目的事項

報告事項

- ・2020年度（一般社団法人第5期）事業報告（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務，Elements，会員，その他）
- ・2021年度（一般社団法人第6期）事業計画書及び収支予算などの件
- ・その他

決議事項

- ・第1号議案 2020年度（一般社団法人第5期）事業報告，決算承認の件
- ・第2号議案 理事の辞任に伴う補欠理事の選任について
- ・第3号議案 会員会費規定第5条の改正について

授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与

名誉会員候補者の推薦委員会答申と審議

2021年8月17日の第4回臨時理事会で承認頂きました名誉会員候補者につきまして，同日に名誉会員推薦委員会に諮問し，名誉会員推薦委員会での審議での結果，名誉会員としてふさわしいと答申がございましたが，理事会での審議の結果，元々の推薦方法について理事から様々な意見があり，今回は答申を保留にして次回理事会まで検討することになった。

【2】 将来企画委員会報告 大和田委員長・副会長

1. 2020年9月18日第1回理事会報告

事務局と雑誌出版の件では将来企画委員会として連携しつつ将来の学会に向けて努力したく，特に若い会員の意見も重視していきたい。

2. 2021年8月28日第3回定例理事会報告

2021年5月29日開催の将来企画委員会での会議内容を報告させていただきます。

企画委員会 開催日時：5月29日(土) 14時00分～14時50分，開催場所：ZOOMにてオンライン開催。

出席：大和田，大藤，森下，阿部，井上，鍵，河上，中野，永鷲（オブザーバー：宮脇，黒澤，栗林，高澤，吉朝，宮地）
欠席：中村

1. 理事会内容報告：委員長から資料に基づいて，午前中に開催された理事会での議論が報告された。
2. 鉱物科学会の現状と将来企画

委員長から資料に基づき，財政状況を含む学会の現状について説明があり，その後，喫緊の課題解決に向けたWGでの議論を踏まえ，意見交換をした。将来の会員減に向けての備えを長期的視野に立って，議論することが確認された。また，委員会での継続審議課題の説明があり，学会の将来像を見据えて，新たな企画を検討した。1)学会入会でメリットにつながる企画の立案・実施や有用情報の継続的発信，2)海外からの学会参加を簡便にするため，電子マネー等での参加費支払いを可能にする，3)クレジットカード等による学会費納入，4)高校生や大学の低学年学生を対象に学会へ取り込み，5)鉱物科学を中心とした中学校理科の副読本の執筆，6)会員以外の鉱物愛好者を取り込み，裾野を広げるような企画の継続的実施(広島大での年会では「一般向け普及講演：はやぶさ2」を開催)，等の企画が提案された。

<電子ジャーナル化の件>

1. 2021年5月29日 第2回定例理事会

(1) 財政，雑誌・編集，事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

大和田副会長より，以下の様な報告がなされた。ここ数年，学会会計収支の赤字(収入900万円，支出1100万円)が続いており，これまで収支改善の努力を続けて来たが大きな節減には繋がらず，このままの推移では2年後に一般会計が赤字となり，現行の事業を続けられない可能性がある。そこで，抜本的な改善策を検討するため，支出額の大きい雑誌・編集と事務局に關係する各担当者・關係者に検討をお願いしたところ，次のような提案がまとめられた。1) 雑誌編集・出版では，電子ジャーナル化へ移行すれば大きく改善できること，2) まず現状の事務局支出を大きく節減し，その後に事務局業務の外注についても，経費を比較しながら検討すること，3) 今後のスケジュールでは，この理事会でJMPSとGKKの電子ジャーナル化と財政再建に向けた情報や議論の共有を行い，2021年9月広島での総会で電子ジャーナル化(2022年1月からの実施)と業務委託内容の調査開始の承認を得て会員に周知，2021年10月～2022年3月に事務局外部委託に關する調査実施，2022年5月第2回理事会では事務局外部委託調査結果の報告と議論を行い，2022年9月新潟での総会では事務局体制についての決議を目指す，との内容である。また，学会誌の電子ジャーナル化は他の多くの学会でも検討しているため，情報交換や連携を模索してもよいのではとの意見もあった。

(2) JMPS誌・GKK誌の電子ジャーナル化の検討審議結果（大和田副会長，吉朝英文誌編集幹事・理事，高澤和文誌編集幹事代理）

大和田副会長より，学会の会計収支を改善する抜本的な対応が必要であり，中でも刊行費を大きく節減する手段として雑誌の電子ジャーナル化が有力との説明がなされた。

続いて，吉朝英文誌編集幹事より，電子ジャーナル化した場合に有利な点と冊子体の有効性の両面が説明され，基本は電子ジャーナルとしても，冊子体を必要とされる方のためにオンデマンド印刷等の対応を検討中との説明があった。編集業務についても，現在，事務局員の個人的努力に負っている部分をどうカバーすべきか検討中とのことであった。最近，携帯型電子媒体で論文を読む人が増えているので，段組でない単純な体裁の方が読みやすく，それが編集業務削減に繋がるのであれば検討しても良いのではとの意見があった。高澤和文誌編集幹事代理からは，電子ジャーナル化に付随した経費削減案や投稿数増加への対応策も検討していること，JMPSとGKKの統合については今後も検討を続けること，さらに，JMPSとGKKの電子ジャーナル化によって節約できる費用(冊子体印刷とカラー化代金・送料，別刷送付費用)と電子ジャーナル化で減収となる費用(個人会員・図書館・書店での冊子体購入費，カラー化代金，別刷代金等)との比較から，電子ジャーナルに移行した方が数十万円の節約につながるとの説明がなされた。GKKの場合，電子ジャーナル化しても独立採算できるわけではないとの補足もなされたが，学会からの多少の補助で運営できるのであれば，学会サービスの一環としては良いのではとの意見があった。また，冊子体を必要とする方へのオンデマンド印刷等も学会サービスとして検討してはとの意見があった。以上の審議の後，JMPSとGKKについては電子ジャーナル化の方向で計画を進めることが，異議なく承認された。

2. 2021年7月27日第3回臨時理事会報告

・刊行費削減・電子ジャーナル化に関する報告（大和田副会長）

副会長より、学会の会計収支状況の改善策の一つとして、雑誌の電子ジャーナル化に向けた準備を進めており、現在、以下の課題について対応を進めていること、そしてこれらの手続きをスムーズに進めるため、この理事会で関連議案が承認されれば、すぐに作業を進める予定であることが報告された。

・電子ジャーナル化へ移行する際の課題

電子ジャーナル化については、1)現在冊子体を購読している会員への対応、2)電子出版する出版社の選定、3)会員への周知、4)電子ジャーナル化に伴う各種規則の改訂、5)出版社への電子出版の仮契約、が主な課題となっている。

1)冊子体を購読している会員への対応については、学会では図書館など公共機関への配布物を含めて冊子体は作成しないこと、冊子体を希望する会員には出版社を紹介して希望会員が直接出版社と契約できるようにすること、現在冊子体頒布の費用として1000円余分に頂いている会費を頒布費用無しの会費に一本化すること、以上の変更に基づく規定・内規の変更を作成・提案することが予定されている。冊子体を希望する会員の会費払い込みは、例年9月の総会より前になるため、2022年1月に電子ジャーナル化に移行した場合、1月以降の会費は余分に支払っている状況となる。このため、状況に応じて余分にお支払い頂いた分を返却する準備も検討する。

2)電子出版を依頼する出版社については、現在、2社から見積もりを取って検討を進めており、今後理事会での検討を経て、正式な依頼先を決定する予定である。また、同じ出版社からは、冊子体を希望する会員がPDF原稿から冊子体を作成してもらうオンデマンド印刷についても予察的な見積もりもとっている。見積もりでは、冊子体の印刷に1万円以上余分に支払う可能性もある。

3)会員への電子ジャーナル化およびそれに伴う諸変更については、メール配信・配布物送付などで対応する予定。まずは学会として正式に電子ジャーナル化に移行することを第8号議案審議結果を以て全会員に会告を出すこと、その後、現在冊子体を希望する会員に対してオンデマンド印刷の詳細をアナウンスすること、他にJMPS誌・GKK誌の投稿ガイドラインの変更等が予定されている。

4)電子ジャーナル化に伴う各種規則の改訂では、上記の会費の件、規定・内規の変更が重要。

5)出版社への電子出版の仮契約については、現在冊子体印刷を依頼している小宮山印刷所との契約が2022年3月31日までとなっており、こちらから申し出が無い場合は自動的に契約更新となる。変更の場合は3ヶ月前の申し出が必要で、その後の変更の場合には残存業務に対して三割増しの料金となる。2022年1月からの電子ジャーナル化のためには、少なくとも今年11月までに連絡する必要がある。

・JMPS誌とGKK誌の電子ジャーナル化の件（大和田副会長）

大和田副会長より、今年5月の第2回理事会で承認されたJMPS誌・GKK誌の電子ジャーナル化について、今回正式に、来年2022年1月から実施することが提案された。今年9月の総会での承認を経て実施する予定で、報告事項2で挙げられている5つの課題(現在冊子体を購読している会員への対応、電子出版する出版社の選定、会員への周知、電子ジャーナル化に伴う各種規則の改訂、出版社への電子出版の仮契約)への対応の実施についても承認を得たい。詳しい実施内容は逐一、理事会に報告する予定である。提案は審議の後、異議なく承認された。

・会員に対する電子ジャーナル化の会告の件（大和田副会長）

大和田副会長より、今年5月の第2回理事会で承認されたJMPS誌・GKK誌の電子ジャーナル化の方針について、会員に対するアナウンスが実施されていないので、下記のような文面の会告を全会員に向けて発送することが提案された。特にメールで会告を受け取ることが難しい会員には郵送することとした。提案は審議の後、異議なく承認された。

3. 2021年8月28日第3回定例理事会報告

会員会費規定、運営細則一部改正の審議（大和田副会長）

現在、2022年1月からJMPS誌及びGKK誌を電子ジャーナル化に移行する作業について準備を進めております。電子ジャーナル化へ移行する際の様々な課題は、2021年7月27日の第3回臨時理事会でもご報告致しましたが、重要な課題として、会費の変更と、それに伴う規定や運営細則の一部改訂の課題があります。現在冊子体を購読している会員は、会費に加えて、冊子体頒布の費用として1000円余分に頂いております。電子ジャーナルになりますと、冊子体を頒布しませんので、会費は頒布費用無しの会費に一本化することになります。

1. 会員会費規定の第3条と第5条の一部改正の件

まず最初に、会員会費規定の第3条と第5条の一部を以下のように改正することを提案させていただきます。ご審議の程、お願い申し上げます。なお、第5条は更に、総会での承認が必要ですので、当理事会「第6号議案 総会の議題・議案について」の決議事項になります。

<改正>

第3条 本会のすべての会員は、以下の権利をもつ

(1) 会誌等の受領。

(2) 会誌への寄稿

(3) 本会の開催する年会、講演会、研究会等における研究発表

(4) 本会の開催する年会、講演会、研究部会、見学会等の事業への参加

(5) 本会の開催する事業に関する情報の受領

~~2 前項(1)の会誌については、正会員及び名誉会員は冊子版及び電子版の購読、または電子版のみの購読のうちいずれかを選択する。~~

~~3 本条第1項(1)の会誌については、賛助会員は冊子版のみ購読することができる。~~

~~4 2 年会費の支払義務を2年以上履行しなかったときは、会員資格及び第1項の権利を喪失する。ただし、未履行の義務についてはこれを免れない。~~

<改正>

会員会費規定（年会費）

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

(1) 電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員 10,000 円、学生会員 6,000 円、シニア会員 8,000 円、
~~名誉会員及び永年会員 1,000 円~~

~~(2) 電子版のみを購読する会員：一般会員 9,000 円、学生会員 4,000 円、シニア会員 7,000 円、~~

名誉会員・永年会員：無料

(2) 賛助会員：1口 20,000 円

2 シニア会員は、申し出によって、雑誌Elementsの受領を辞退することができる

その場合のシニア会員の会費は、電子版及び冊子版を購読するシニア会員6,000 円、電子版のみを購読するシニア会員5,000 円となる。

(附則)

本規程は、一般社団法人日本鉱物科学会設立の登記日に遡って適用されるものとする。

平成30年9月20日改正。この改正は、2019年8月1日から実施する。

【3】JpGU 2021年学会選出プログラム委員報告（門馬委員長）

1. 2021年5月29日第2回理事会報告

例年通り、資源地質学会・日本地質学会と共同で、JpGU 2021のセッション『岩石・鉱物・資源』の提案を行った。口頭8件、ポスター10件の計18件の投稿があり、すべてオンラインで発表が行われる予定である。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

例年通り、資源地質学会・日本地質学会と共同で、JpGU 2020のセッション『岩石・鉱物・資源』の提案を行い、学協会セッションとして承認した。今年のJpGUはオンライン開催となりた。

【4】地惑連合報告（阿部連絡担当委員・理事）

1. 2021年5月29日第2回定例理事会での報告内容

1) JpGU2021大会

- ・2021年5月30日（日）～6月6日（日）完全オンライン・ConfitとZoom（アプリケーション版）を利用。
- ・パシフィコ横浜のキャンセル料が発生。
- ・6月4日（金）までまだ参加登録受付中。特にパブリックセッション（5/30, 6/6）については、一般参加（無料）を広く呼びかけて欲しい。

・5月31日（月）12:30-13:30学協会長会議、17:15-18:15 定時社員総会

- ・展示企画にて鉱物科学会も展示（広報委員会）
- ・今後の大会オンラインシステム改善のため、寄付を募っている。

(2) SDGsタスクフォース

各サイエンスセクションおよび委員会代表、有志、オブザーバーによるSDGsタスクフォースの会合（ブレインストーミング）を2021年1～3月にかけて3回実施。JpGUとしてどのようにSDGsと関わり推進していくか議論。今後ワーキンググループを結成して実働（例えば「若手会」など）に移していく。

(3) JpGUフェロー、西田賞に関する議論

JpGUフェロー規則および西田賞受賞候補規則（年齢制限45歳未満）の改定について検討中。

(4) ダイバーシティ推進

・各サイエンスセクションのメンバー、委員会委員の女性比率を目標30%（最低20%）に引き上げるよう努力中。（参考2017年：正会員14%、学生会員28%）

・男女共同参画学協会連絡会（<https://www.djrenrakukai.org/>）において、研究者の推移を調査するため、大規模アンケート（4～5年に一度）準備中。第5回調査は、2021年10月に2週間程度の期間実施。（<https://www.djrenrakukai.org/enquete.html#enq>）

2. 2021年8月28日第3回定例理事会報告内容

1) 準会員の扱いについて

準会員（学部生会員、高校生等一般）について、連絡不通の会員が相当数居るため、その扱いについて議論している。

2) 2022年大会案

2022年5月22日（日）～5月27日（金）の6日間、幕張メッセの国際会議場（現地）とオンラインのハイブリッド形式の予定で準備開始。10月1日（金）～11月2日（火）にセッション提案募集予定。

3) 国際対応

AGUからの声がかけて、JpGU, EGU等11学会が賛同し、4つのテーマ（Early Career、声明・政策、アウトリーチ、DEI）について国際タスクグループを編成する。

4) 2022年代議員選挙 8月13日9:00-9月13日17:00立候補・推薦受け付け。10月4日9:00-11月4日17:00投票。

<http://www.jpгу.org/2022daigiin-kokujii/>

5) 大規模アンケート

男女共同参画学協会連絡会にて4～5年に一度実施している大規模アンケートを、2021年10月20日-11月19日まで実施予定。アンケート結果は、政府機関等への政策提言にも用いられる。内閣府科学技術イノベーション基本計画等にも反映されるので、なるべく多くの人に回答頂きたい。

【5】学術会議報告（西山学術会議連携会員）

1. 2020年9月18日第1回理事会報告

大谷IMA小委員会委員長から、2020年9月17日（木）17:45-18:45に開催された2020年第2回IMA小委員会（ZOOM会議）について以下の報告がなされた。

議題：1. 議事録(2020/5/23)の承認、2. IMA関係ビジネス報告、3. IMAコミッション報告、4. 学術会議報告：学術会議24期の終了と第25期への申し送り事項（IMA小委員会が継続される）、5. 第25期のIMA小委員会メンバーの継続依頼と交代。小委員会委員長の自薦他薦の件、6. その他：来年の国際会議への派遣費用申請周知と新鉱物について日本からの申請や日本人にちなんだ新鉱物名の情報提供依頼があり、CNMNC(新鉱物命名・分類コミッション)委員が対応することになった。

2. 2021年5月29日第2回理事会報告

1. 役員交代

2. IMA business meeting報告：2020年1月12日 IMA business meeting on line に小委員会メンバー4名が参加。新執行部を決める投票に日本から4票を入れた。なお、この新執行部のcouncilorの一人に大藤弘明氏が候補者となっている。2020年1月14日：IMA business meeting on lineに再び上記4名が参加。新執行部選挙結果を確認。大藤弘明氏がcouncilorに就任。

3. 国際集會代表派遣決定報告

4. 学術会議学術フォーラム「地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献」報告

5. 学術会議の動向（任命拒否問題など）

6. その他

学術会議25期の会員・連携会員の推薦（締め切り2020/1/16～2/3）が行われた。25期の会員（210名）・連携会員（2000名）の半数改選が、本年10月に行われる。各委員が交代、改選。学術会議第25期は2020/10から3年間

5. 鉱物科学における人材育成：特に女性研究者の育成

我が国の学会におけるジェンダーバランスについて

海外の学会（Geochemical Society, AGUなど）では、女性の執行部が普通になっている。日本は？

- 女性研究者の学会活動への参加（代議員に占める割合はどうか）
6. 鉱物科学とデータアーカイブ；博物館の役割
JPGUユニオンセッションで「ビッグデータとオープンサイエンス」を議論予定
発表論文のデータをどこで保管するのか？ 岩石・鉱物標本をどこでどのように保管するのか。
Data repositoryの現状：ドイツの例、The World Data Center PANGAEA
鉱物科学においては？ 大学図書館？大学博物館？

【6】教育普及委員会報告（林信太郎委員長）

1. 2021年5月29日第2回定例理事会での報告内容
教育普及委員会今年度の目標
- 1) 教育普及委員会現在の委員会体制
 - 2) SSHを通じた高大連携活動によるアウトリーチ
 - 3) 一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動の方策を新型コロナ肺炎の状況を見ながら、考え実行する。
 - 4) 小中高の理科教科書のチェックについて
- 実施状況
1. 教育普及委員会現在の委員会体制：検討中
 2. SSHを通じた高大連携活動によるアウトリーチ
実施済：熊谷高校と東JAMSTECを結んだオンライン講座の開催。
実施予定：熊谷高校の秋田大学訪問と講演会。
 3. 一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動
ジオパークでの遠隔講座として銚子ジオパークと交渉したが、担当者が交代したため糸魚川ジオパークと交渉予定である。また、学校で活用されやすいようにYouTubeに短い動画シリーズを掲載することも検討している。内容は小学校向けに「黒雲母のへき開」「岩塩の結晶を作ろう」などを考えている。
 4. 小中高の理科教科書のチェックについて
趣旨「学校教育で使用される教科書は、多くの児童生徒の目に触れるため、影響力が大きい。そのため、現行の小中高の理科教科書の鉱物科学的正確性は、鉱物科学の普及を考える上で重要である。そこで、現行の小中高の理科教科書中の鉱物科学に関する記述に関して、検討を行い、誤りがあった場合は理事会に図った上で、教科書会社に提言を行う。
・中学校理科の教科書（1年生理科；主要5社）のチェックを開始した。結晶の定義（多くの教科書で結晶面に囲まれていると定義されている）や火山灰の構成物に火山ガラスが含まれないなどの問題点が既に発見されている。秋までにまとめてJAMS大会で報告。
・教科書会社に提言を行うほかに、「中学校理科教科書における鉱物科学的記述に関する指針」を出すというアイデアも出されている。
 5. その他 会員による鉱物学の普及活動が拡大傾向にある。把握する必要があるかもしれない。
青少年のための科学の祭典・大阪大会で普及活動を行う予定。
2. 2021年8月28日第3回定例理事会報告内容
2021年7月3日オンラインで開催された教育普及委員会での会議内容を報告させていただきます。
- 1) 中学校理科教科書の内容チェック：中学校理科教科書における鉱物名の表記は、漢字表記、漢字混じりのカタカナ表記の2種類があり、教科書会社ごとに異なる。この問題について「中学校理科教科書における鉱物名の表記について」(教育普及委員のうち4名)という講演を大会で行う予定。鉱物科学会で「教科書に使用する鉱物名のガイドライン」のような統一的な基準を示した方が良いかどうか会員の意見を聞きたい。
 - 2) 会員の普及活動のリストを集める：JOGMECについてはかなり活発に普及活動を行なっていることを把握している。引き続き、鉱物科学会会員が鉱物学の普及にあっている例を探しリストアップする。

【7】博物館委員会報告（坂野委員長）

2021年5月29日第2回定例理事会での報告内容
IMA博物館委員会の状況及び国際会議M&M9の情報を委員内で共有した。M&M9は2021年8月24日～26日にハイブリッド方式での開催に変更となり、そこで行なわれるIMA博物館委員会ビジネスミーティングには委員長がweb会議で参加する予定。

【8】新鉱物・命名・分類委員会報告（門馬委員長）

2021年5月29日第2回定例理事会での報告内容
2020年には113件の新鉱物承認、8件の鉱物群の定義、3件の鉱物名抹消、2件の再定義があった。日本からは新鉱物 苦前鉱 / Tomamaeite Cu₃Pt、フェリぶどう石 / Ferriprehnite Ca₂Fe₃(AlSi₃)O₁₀(OH)₂ の2件が承認された。

【9】研究部会継続申請と報告：研究部会「岩石 - 水相互作用」

2020年9月18日第1回理事会
研究部会「岩石 - 水相互作用」の設置申し入れの件（土屋代表・理事）
土屋理事から第六期(2020年10月1日～2022年9月30日) 研究部会「岩石 - 水相互作用」継続設置。設立趣意の以下の説明があり、継続設置は異議なく承認された。
日本鉱物科学会 理事会提出資料 研究部会継続申請書 岩石 - 水相互作用 研究部会
幹事 土屋範芳（代表者）奥山康子、藤本光一郎、河上哲生 研究部会名： 岩石 - 水相互作用
研究部会の延長申請する理由：
地球を構成する岩石と流体は、それぞれの特徴に誘発されると岩石と流体との相互作用が生じ、地球科学プロセスの重要な位置を占めている。地圏環境の総合的理解を進めるためには、「岩石」、「流体」おのおのの特質を理解するだけでなく、これらの地球物質間の相互作用を十分に把握する必要がある。本研究部会は、岩石と流体の相互作用の解明から、地殻・マントル・核の形成、資源の形成、地球内部の流体循環などの地球科学プロセスの理解の進展のために、平成19年9月開催の日本鉱物科学会評議員会において設立が承認された。
本研究部会では、岩石と流体の相互作用についての分野横断的な研究発表、情報交換、共同研究などの学術活動を展開し、過去3カ年の年会ではセッションを組んで、変成岩、熱水変質、鉱床、熱水実験、二酸化炭素の地層貯留などの幅広い分野の研究者の参加があった。今後もこの分野の発展と情報交換の基盤形成のために、研究部会の2カ年の延長を申請する。
活動実績：

28年度年会（金沢）口頭発表12件，ポスター発表10件 29年度年会（愛媛）口頭発表12件，ポスター発表5件
 30年度大会（山形）口頭発表11件，ポスター発表4件 2019年度大会（福岡）口頭発表6件，ポスター発表4件
 2020年度大会（オンライン）口頭発表11件，要旨による発表1件

研究部会設置期間：

第一期 平成19年10月1日～平成22年9月30日 第二期 平成22年10月1日～平成25年9月30日

第三期 平成25年10月1日～平成28年9月30日 第四期 平成28年10月1日～平成30年9月30日

法人化により期間は2年に変更（理事任期と同期させるため）

第五期 平成30年10月1日～平成32年9月30日(令和2年9月30日) 第六期2020年10月1日～2022年9月30日（本延長申請）

申請者氏名 代表者 土屋範芳（東北大学）

幹事 奥山康子（産業技術総合研究所），幹事 藤本光一郎（東京学芸大学），幹事 河上哲生（京都大学），宇野正起（東北大学），岡本 敦（東北大学），掛川 武（東北大学），佐脇貴幸（産業技術総合研究所），中田英二（電力中央研究所），東野文子（岡山理科大学），柳澤教雄（産業技術総合研究所）

【10】会員報告（阿部会員幹事・理事）

2020年度中の会員増減 入会45+復活2-退会者等49(退会37+物故2+不明0+停止10)=-2

会員推移

過去会員推移																2021年8月28日まで	
	2007年 9月20 日	2008年 9月21 日	2009年 9月9日	2010年 9月23 日	2011年 9月8日	2012年 9月19 日	2013年 9月11 日	2014年 9月18 日	2015年 9月25 日	2016年 9月24 日	2017年 8月12 日	2017年 9月12 日	2018年 9月3日	2019年 8月29 日	2020年 8月29 日	2021年 8月28日	
一般会員(R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583	565	554	541	
シニア会員(RS)						139	142	148	154	171	175	175	178	175	176	172	
学生会員(S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84	90	72	88	
永年会員(L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35	36	32	32	
名誉会員(H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16	14	10	9	
会員合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896	880	844	842	

【11】細則等検討委員会報告（大和田細則等検討特務幹事・理事）

2020年9月18日第1回理事会審議事項答申内容と承認

委員会委員選出方法の件（大和田細則等検討幹事・理事）

改正箇所

1. 細則等検討委員会委員(新規4名選出)

<細則等検討委員会内規改正案>

第4項-(2) 委員は、委員長理事が正会員，名誉会員の中から委員候補者を選挙で選定して指名し，理事会での承認を経て，会長がこれを委嘱する。

附則 令和2年(2020年)9月18日改正

2. 日本鉱物科学会賞選考委員会委員(11名選出)

<日本鉱物科学会賞規定 第5条改正案>

第5条 委員会は11名の委員で構成する。

2.1. 委員長は委員の中から会長が指名し，副委員長は委員の中から委員長が指名する。

2.2. ~~11名委員のうち，1名は会長とし，残り10名は委員長理事~~が正会員，名誉会員の中から

指名し，理事会の承認を経て候補者を選挙で選定して(なお，平成28年度に限り任期2年目の理事が担当する)，会長がこれを委嘱する。但し委員のうち，2名以上は理事とする。

2.3. 委員の任期は，委嘱された日から新委員の選出が行われる第1回定例理事会の日から，表彰を行う

定例総会終了時までとする。再任を妨げない。

2. 委員長は委員の中から会長が指名し，副委員長は委員の中から委員長が指名する。

附則 令和2年(2020年)9月18日改正

3. 渡邊萬次郎賞選考委員会委員(半数交代新規4名選出)

<渡邊萬次郎賞規定第5条改正案>

第5条 委員会は8名の委員で構成する。

1. 委員は，委員長理事が正会員，名誉会員の中から委員候補者を指名し，理事会での承認を経て選挙で選定して，会長がこれを委嘱する。但し委員のうち，2名以上は理事とする。

2. 委員の任期は2年とし，選任後2年以内に終了する事業年度のうち，最終のものに係る定例総会終了時までとする。毎年その半数を交代する。再任を妨げない。

3. 委員長は原則として2期目の委員の中から会長が指名し，副委員長は原則として1期目の委員の中から委員長が指名する。

附則 令和2年(2020年)9月18日改正

4. 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員(半数交代新規5名選出)

<日本鉱物科学会論文賞規定 第6条改正案>

第6条 委員会は10名の委員で構成する。

1. 委員は，委員長理事が正会員，名誉会員の中から委員候補者を指名し，理事会での承認を経て選挙で選定して，会長がこれを委嘱する。但し，委員のうち，2名以上は理事とする。

2. 委員の任期は2年とし，選任後2年以内に終了する事業年度のうち，最終のものに係る定例総会終了時までとする。毎年その半数を交代する。再任を妨げない。

3. 委員長は原則として2期目の委員の中から会長が指名し，副委員長は原則として1期目の委員の中から委員長が指名する。

附則 令和2年(2020年)9月18日改正

5. 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会委員(半数交代新規5名選出)

<日本鉱物科学会研究奨励賞規定 第5条改正案>

第5条 委員会は10名の委員で構成する。

1. 委員は、委員長理事が正会員、名誉会員の中から委員候補者を指名し、理事会での承認を経て、選挙で選定して、会長がこれを委嘱する。但し、委員のうち、2名以上は理事とする。
2. 委員の任期は2年とし、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに係る定例総会終了時までとする。毎年その半数を交代する。再任を妨げない。

3. 委員長は原則として2期目の委員の中から会長が指名し、副委員長は原則として1期目の委員の中から委員長が指名する。

附則 令和2年(2020年)9月18日改正

6. 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会委員(半数交代新規5名選出)

<日本鉱物科学会応用鉱物科学賞規定第5条改正案>

第5条 委員会は10名の委員で構成する。

1. 委員は、委員長理事が正会員、名誉会員の中から委員候補者を指名し、理事会での承認を経て選挙で選定して、会長がこれを委嘱する。但し委員のうち、2名以上は理事とする。
2. 委員の任期は2年とし、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに係る定例総会終了時までとする。毎年その半数を交代する。再任を妨げない。

3. 委員長は原則として2期目の委員の中から会長が指名し、副委員長は原則として1期目の委員の中から委員長が指名する。

附則 令和2年(2020年)9月18日改正

・ 2021年度(一般社団法人第6期)事業計画書及び収支予算案などの件

1. 2021年度事業計画紹介(宮協会長)

以下の本会の事業を第6期も継続して行ってまいります。

編集事業：岩石鉱物科学、Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行

行事事業：2022年年会(新潟大学)の開催と2021年度定時社員総会の開催、一般普及講演、各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

また、この1年間、執行部、理事は、学会事業の見直しを検討し、学会誌の完全電子化による財政の健全化を図る案を策定し、会員の皆様に提示したところです。第6期では、庶務、広報など検討をさらに進め、学術活動に専念できる体制を整え、会員のみならず、社会にも貢献する活気を取り戻すよう進めていきたいと思っております。

2. 2021年度収支予算紹介(17頁に掲載)(栗林会計幹事)

2021年8月28日に開催された第3回定例理事会にて、2021年度会計収支予算が承認されましたので紹介します。

・ その他

一般社団法人日本鉱物科学会2021年度 会計収支予算 理事会承認	
2021年8月1日から2022年7月31日まで	
科 目	2021年度予算
経常収益	
会費収入	7,855,000
一般会員	5,047,000
シニア会員	1,295,000
学生会員	270,000
永年・名誉会員	13,000
購読会員	650,000
賛助会員	260,000
未収会費	300,000
前々年度分回収会費	20,000
出版物収入	1,710,000
和文誌（GKK）収入	200,000
英文誌（JMPS）収入	1,500,000
バックナンバーその他	10,000
広告収入	25,000
年会収入	1,200,000
雑収入	100,000
経常収益計	10,890,000
前年度繰越金	4,263,248
経常収入合計	15,153,248
特定資産前年度繰越金	6,024,445
学会賞等刊行基金	3,477,060
学会賞・奨励賞・論文賞基金	664,875
渡邊萬次郎賞基金	83,169
国際学会・年会基金	1,799,341
収入合計	21,177,693
科 目	2021年度予算
経常費用	
刊行費	3,900,000
GKK印刷本冊費	1,000,000
GKKその他印刷費	50,000
JMPSE印刷本冊費	1,900,000
JMPSその他印刷費	500,000
通信運搬費	360,000
コピー機支払リース料	40,000
英文校閲費	0
J-Stage-EM利用料	50,000
集会費	1,250,000
年会開催費	1,200,000
会議費	50,000
学会賞副賞	200,000
鉱物学会賞記念品費	70,000
研究奨励賞記念品	40,000
応用鉱物科学賞	20,000
論文賞記念品	15,000
渡邊萬次郎賞記念品	5,000
受賞者懇親会費	0
受賞者参加費	0
発表賞支援金	50,000
Elements購読会費	1,250,000
管理費	5,061,400
支払報酬料	430,000
租税公課	2,000
法人税、住民税及び事業税	184,400
給料手当	3,200,000
法定福利費	450,000
旅費交通費通勤手当	170,000
臨時雇賃金	20,000
旅費交通費出張費	0
水道光熱費	20,000
地代家賃	70,000
通信費電話回線料	125,000
通信費郵送料など	100,000
送金手数料	70,000
消耗品費PC関係	40,000
消耗品費コピー利用代	50,000
消耗品費その他	50,000
鉱物ポスター印刷費	0
支払寄付金（地学オリンピック）	50,000
YMO補助	0
雑費	30,000
経常費用計	11,661,400
次年度繰越金合計	9,516,293
	21,177,693

決議事項

第1号議案 2020年度（一般社団法人第5期）事業報告，決算承認の件

（宮脇会長 説明：栗林会計幹事，監査報告：小暮監事）

上記に記載しました2020年度事業報告に続き，以下の決算についての説明をいたします。その後，監査報告をいたしますので，事業報告と決算について，ご審議をお願いします。

1. 2020年度（一般社団法人第5期）決算について(説明：栗林会計幹事)

(1)貸借対照表

貸借対照表			
令和 3年 7月31日現在			
一般社団法人日本鉱物科学会			
科 目	当年度	前年度	(単位：円) 増 減
資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,310,748	3,581,205	729,543
前払費用	357,500	1,403,482	1,045,982
流動資産合計	4,668,248	4,984,687	316,439
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,477,060	3,477,031	29
学会賞・奨励賞・論文賞基金	664,875	795,638	130,763
渡邊萬次郎賞基金	83,169	87,459	4,290
国際学会・年会基金	1,799,341	1,849,325	49,984
特定資産合計	6,024,445	6,209,453	185,008
固定資産合計	6,024,445	6,209,453	185,008
資産合計	10,692,693	11,194,140	501,447
負債の部			
1. 流動負債			
未払金	57,340	0	57,340
前受金	0	1,138,500	1,138,500
前受会費	405,000	232,420	172,580
預り金	80,235	457,210	376,975
未払法人税等	184,400	76,400	108,000
流動負債合計	726,975	1,904,530	1,177,555
負債合計	726,975	1,904,530	1,177,555
正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(6,024,445)	(6,209,453)	(185,008)
正味財産合計	9,965,718	9,289,610	676,108
負債及び正味財産合計	10,692,693	11,194,140	501,447

(2)正味財産増減計算書

正味財産増減計算書			
令和 2年 8月 1日から令和 3年 7月31日まで			
一般社団法人日本鉱物科学会			
科 目	当年度	前年度	(単位:円) 増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	7,311,221	8,181,152	869,931
一般会員	4,628,000	4,975,000	347,000
学生会員	277,000	377,000	100,000
シニア会員	1,146,000	1,203,000	57,000
永年・名誉会員	12,000	15,000	3,000
購読会員	609,501	662,152	52,651
賛助会員	260,000	260,000	0
前年度分会費	378,720	689,000	310,280
出版物収入	3,074,038	1,533,100	1,540,938
和文誌(GKK)収入	91,500	73,300	18,200
英文誌(JMPS)収入	2,963,188	1,437,900	1,525,288
バックナンバーその他	19,350	21,900	2,550
広告収入	25,000	10,000	15,000
年会収入	328,000	2,465,500	2,137,500
参加費	328,000	1,669,500	1,341,500
懇親会費	0	619,000	619,000
展示料収入	0	175,000	175,000
その他収入	0	2,000	2,000
雑収入	962,529	124,175	838,354
著作権料収入	147,969	114,095	33,874
受取利息	83	80	3
編集作業収入	782,118	0	782,118
雑収入	32,359	10,000	22,359
経常収益計	11,700,788	12,313,927	613,139
(2) 経常費用			
刊行費	4,528,095	3,938,452	589,643
GKK印刷本冊費	753,374	946,911	193,537
GKKその他印刷費	39,039	47,834	8,795
JMPS印刷本冊費	2,409,688	1,746,200	663,488
JMPSその他印刷費	764,654	499,867	264,787
通信運搬費	353,034	395,793	42,759
支払リース料	111,456	111,456	0
英文校閲費	45,150	137,041	91,891
J-Stage-EM利用料	51,700	53,350	1,650
集会費	181,014	1,918,235	1,737,221
年会開催費	121,074	1,866,635	1,745,561
会議費	59,940	51,600	8,340
学会賞副賞	135,060	176,602	41,542
鉱物学会賞記念品費	70,000	70,000	0
研究奨励賞記念品	40,000	40,000	0
応用鉱物科学賞記念品	20,770	20,770	0
論文賞記念品	0	8,519	8,519
渡邊萬次郎賞記念品	4,290	5,115	825
発表賞支援金	0	32,198	32,198
Elements購読会費	639,452	1,227,374	587,922
管理費	5,356,659	5,825,472	468,813
支払報酬料	431,834	381,235	50,599
租税公課	2,700	0	2,700
給料手当	3,400,874	3,400,874	0
法定福利費	511,418	510,548	870
旅費交通費通勤手当	310,560	374,040	63,480
臨時雇賃金	49,000	314,840	265,840
旅費交通費出張費	0	132,090	132,090
水道光熱費	20,847	20,907	60
地代家賃	63,009	62,436	573
通信運搬費	265,131	208,558	56,573
支払手数料	89,135	96,394	7,259
消耗品費	152,335	227,536	75,201
支払寄付金	50,000	50,000	0
雑費	9,816	46,014	36,198
経常費用計	10,840,280	13,086,135	2,245,855
評価損益等調整前当期経常増減額	860,508	772,208	1,632,716
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	860,508	772,208	1,632,716
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	860,508	772,208	1,632,716
法人税、住民税及び事業税	184,400	76,400	108,000
当期一般正味財産増減額	676,108	848,608	1,524,716
一般正味財産期首残高	9,289,610	10,138,218	848,608
一般正味財産期末残高	9,965,718	9,289,610	676,108
指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
正味財産期末残高	9,965,718	9,289,610	676,108

(3) 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記				
一般社団法人日本鉱物科学会				
(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。				
2. 特定資産の増減額及びその残高 特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。				
(単位：円)				
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,031	29	0	3,477,060
学会賞・奨励賞・論文賞基金	795,638	7	130,770	664,875
渡邊萬次郎賞基金	87,459	0	4,290	83,169
国際学会・年会基金	1,849,325	16	50,000	1,799,341
小 計	6,209,453	52	185,060	6,024,445
合 計	6,209,453	52	185,060	6,024,445
3. 特定資産の財源等の内訳 特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。				
(単位：円)				
科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,060	(0)	(3,477,060)	(0)
学会賞・奨励賞・論文賞基金	664,875	(0)	(664,875)	(0)
渡邊萬次郎賞基金	83,169	(0)	(83,169)	(0)
国際学会・年会基金	1,799,341	(0)	(1,799,341)	(0)
小 計	6,024,445	(0)	(6,024,445)	(0)
合 計	6,024,445	(0)	(6,024,445)	(0)

(4) 附属明細書

附属明細書	
一般社団法人日本鉱物科学会	
1. 特定資産の明細 特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。	
2. 引当金の明細 該当なし。	

2. 監査報告 (小暮監事)

23頁の監査報告書の通り。

・第2号議案 理事の辞任に伴う補欠理事の選任について (宮協会長)

長瀬敏郎理事(東北大学)の辞任(2021年9月17日付)に伴う理事の補欠選任を行いますので、以下の候補者について、ご審議をお願いします。

後任理事の候補者は、昨年度の役員選挙次点者、永井隆哉会員(北海道大学大学院理学研究院)で、任期は、定款第23条第3項の規定により、前任者の任期の満了する時まで、2022年9月に開催する2021年度定時総会終了までとなります。

(参考規定)

定款(役員の任期)

定款23条第3項 補欠として選任された理事または監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

役員選出内規 (次点者)

15.(1) 理事または監事候補者選挙の次点者は、総会で理事または監事の補欠候補者として順位を付して議決するものとする。

(2) 理事または監事に欠員が生じた場合、理事または監事の補欠候補者の上位者より順に理事または監事として補充する。但し、補欠として選任された理事または監事の任期は、前任者の満了する時までとする。

第3号議案 会員会費規定第5条の改正について (大和田副会長)

現在、2022年1月からJMPS誌及びGKK誌を電子ジャーナル化に移行する作業について準備を進めております。電子ジャーナル化へ移行する際の様々な課題は、会員の皆様にもご報告致しましたが、重要な課題として、会員会費第5条の一部改正は総会での承認が必要となりますので、ご審議をお願いします。

会員会費規定の第5条の改正の件

<現行>

会員会費規定(年会費)

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

- (1) 電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員 10,000 円、学生会員 5,000 円、シニア会員 8,000 円、
名誉会員及び永年会員 1,000 円
- (2) 電子版のみを購読する会員：一般会員 9,000 円、学生会員 4,000 円、シニア会員 7,000 円、
名誉会員・永年会員：無料

(3) 賛助会員：1口 20,000 円

2 シニア会員は、申し出によって、雑誌Elements の受領を辞退することができる

その場合のシニア会員の会費は、電子版及び冊子版を購読するシニア会員6,000 円、電子版のみを購読するシニア会員5,000 円となる。

(附則)

本規程は、一般社団法人日本鉱物科学会設立の登記日に遡って適用されるものとする。

平成30年9月20日改正。この改正は、2019年8月1日から実施する。

<改正>

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

(1) ~~電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員 10,000 円、学生会員 5,000 円、シニア会員 8,000 円、名誉会員及び永年会員 1,000 円~~

~~(2) 電子版のみを購読する会員：一般会員 9,000 円、学生会員 4,000 円、シニア会員 7,000 円、名誉会員・永年会員：無料~~

(3) 賛助会員：1口 20,000 円

2 シニア会員は、申し出によって、雑誌Elements の受領を辞退することができる

その場合のシニア会員の会費は、~~電子版及び冊子版を購読するシニア会員6,000 円、電子版のみを購読するシニア会員5,000 円~~となる。

(附則)

本規程は、一般社団法人日本鉱物科学会設立の登記日に遡って適用されるものとする。

平成30年9月20日改正。この改正は、2019年8月1日から実施する。

~~2021年9月17日改正。2021年8月1日に遡り適用されるものとする。~~

閉会宣言

各賞授賞式（宮協会長）

【1】2020年度日本鉱物科学会賞表彰

第24回受賞者：三河内 岳 会員（東京大学 総合研究博物館 研究部）
業績題目：地球外物質の鉱物学的研究による太陽系における天体進化プロセスの解明

第25回受賞者：辻森 樹 会員（東北大学 東北アジア研究センター）
業績題目：プレート境界岩総合解析によるオロゲン地質記録と変成プロセスの研究

【2】渡邊萬次郎賞表彰

第37回受賞者：溝田 忠人 永年会員

【3】2020年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第23回受賞論文

Title: High-temperature Raman spectroscopic study of CO₂-containing melanophlogite, JMPS, 114, 122–129, 2019.

Author: Masami KANZAKI

受賞者：神崎正美会員

第24回受賞論文

Title: High resolution X-ray computed tomography and scanning electron microscopy studies of multiphase solid inclusions in Oman podiform chromitite: implications for post-entrapment modification, JMPS, 115, 247–260, 2020.

Authors: Yuan YAO, Eiichi TAKAZAWA, Sayantani CHATTERJEE, Antonin RICHARD, Christophe MORLOT, Laura CRÉON, Salim AL-BUSAIDI, Katsuyoshi MICHIBAYASHI, Oman Drilling Project Science Team

受賞者：高澤栄一会員、道林克禎会員

【4】2020年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第29回受賞者：田阪 美樹会員（静岡大学理学部地球科学科）
研究対象：マントルにおける物質移動メカニズムを解明するための岩石鉱物物理研究

第30回受賞者：瀧川 晶会員（東京大学大学院理学系研究科）
研究対象：「銀河系における物質循環に関する研究」

【5】2020年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第13回受賞者：田村 堅志 氏（国立研究開発法人物質・材料研究機構）
受賞題目：雲母・粘土鉱物を応用したナノコンポジット材料と有害物質吸着剤の開発

【6】2020年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第11回受賞論文：Keisuke ESHIMA, Masaaki OWADA and Atsushi KAMEI, Assimilation and fractional crystallization of Sanukitic high-Mg andesite-derived magmas, Kyushu Island, southwest Japan: An example of the Cretaceous Shaku-dake diorite body. JMPS, 115-4, 323-347, 2020.

受賞者：江島 圭祐（投稿時：山口大D1）

第12回受賞論文：Dyuti Prakash SARKAR, Jun-ichi ANDO, Kaushik DAS, Anupam CHATTOPADHYAY, Gautam GHOSH, Kenji SHIMIZU and Hiroaki OHFUJI, Serpentinite enigma of the Rakhabdev lineament in western India: Origin, deformation characterization and tectonic implications. JMPS, 115-2, 216-226, 2020.

受賞者：SARKAR Dyuti Prakash（投稿時：広島大D3）

監査報告書

令和3年(2021年)8月28日

一般社団法人日本鉱物科学会
代表理事(会長) 宮脇 律郎 殿
代表理事(副会長) 大和田 正明 殿

一般社団法人日本鉱物科学会
監事 小暮 敏博



私監事は、2020年(令和2年)8月1日から2021年(令和3年)7月31日までの一般社団法人日本鉱物科学会第V期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。
その結果につき次の通り報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその付属明細書の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の方向を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務の執行に関し、不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上